答辞

キャンパスの桜もほころびはじめ、うららかな春の訪れを感じる、この良き日に、私たちは、神戸大学より博士の学位を頂くことになりました。

本日は、福田秀樹学長をはじめ、諸先生方、ならびにご来賓の皆様方にご臨席を賜り、このような盛大な学位記授与式を挙行して頂きましたこと、私たち修了生一同、心より厚く御礼申し上げます。ただ今、頂戴した御言葉を、心にしっかりと刻み、私たちはそれぞれの新しい道へと歩み出してまいります。

振り返りますと、学問への探求心に胸を熱くして入学して以来、長い年月が過ぎました。神戸大学の自由で整備された研究環境は、私たちに、生涯忘れることのできない貴重な時間を与えてくださいました。各分野の第一線におられる諸先生方による講義に刺激を受け、書物やデータとの出会いに感動しました。研究上の問題を独自に設定し、思考や議論を重ね、自身の研究となるものを確立していくプロセスは創造的な喜びに満ち溢れていました。しかし、博士論文をまとめあげるまでの道のりは、決して平坦なものではありませんでした。それは、孤独で厳しい自分自身との闘いの連続でした。分析方法、データの解釈、論理の組み立て方、ひとつひとつ考え悩み、ときには、費やされる時間に終わりが見えず、途方にくれることもありました。私たちがこのような苦しみの末に研究論文を完成し、今日、博士の学位を頂くことがかなったのは、ひとえに、支えてくださった皆様のお蔭にほかなりません。諸先生方からは、研究者としての基本姿勢をしめして頂きました。また、惜しみないご指導、ご支援を通じて、学問の厳しさと喜びを教えて頂きました。同じ志を持つ仲間には、苦しいのは自分ひとりではないのだということを教えられました。

これから、私たちの進む道は異なりますが、神戸大学で培った知性、専門性、経験をもとに、それぞれの分野において貢献できるよう、一層努力してまいります。それが、神戸大学から博士の学位を頂いたことの責務であり、何よりも支えてくださった皆様への恩返しになると信じております。

最後になりましたが、今日この日までご指導下さった諸先生方、お世話になった職員の皆様に心より御礼申し上げます。また、共に励ましあった仲間、そして、見守り続けてくれた家族にも感謝いたします。

神戸大学のますますのご発展と、皆様方のご健康、ご多幸をお祈りし、答辞とさせて頂きます。

平成 22 年 3 月 24 日

修了生代表　法学研究科博士後期課程　吉岡すずか